

## 大連理工大学 (DUT) サマープログラム

社会環境学部 3年

巢山 茜

2011年7月24日～8月13日の21日間、私は大連理工大学のサマープログラムに参加しました。

もともと海外に行ってみたくてという希望は持っていましたが、サークル活動やアルバイト生活に明け暮れ、なかなか機会がありませんでした。今回、このプログラムを知り、参加させていただいたのも、本当に偶然でしたが大変有意義な研修となりましたので報告いたします。

### ・食生活

中国では水道水がそのまま飲めません。飲み物はすべて売店やスーパーで購入していました。また、朝、昼、夕の食事ですが、わたしは特に困った点はありませんでした。昼ごはんや夕ご飯は中国の学生があちこちのお店に食べに連れて行ってくれました。放課後にバスで買い物に連れ出してくれた時も、「この辺に有名なチキンのお店があるよ！」や、「寮の近くに日本にもある牛丼があるよ！」「チャーハンがおいしいよ！」など、さまざまところでいろんなものを食べることができ、毎日が大満足でした。

わたしの一番のお気に入りだったのが、寮の近くにあったチャーハン屋です。いつもそこでチャーハンを買って、となりのジュース屋さんで友達おしゃべりしながら楽しい時間をすごしました。ジュース屋さんの店長さんは日本で働いていた経験があるため、とても日本語が上手で頼りになりました。









## ・寮生活

滞在先は、寮というよりは一般のお客さんも利用するホテルのような感じでした。受付のスタッフの方は日本語は話せず、英語もできないので手続きはすべて中国人学生まかせとなっていました。私は2人部屋を希望していましたが相手がいなかったらしく、9日間は2人部屋を1人で使いました。

部屋の環境は正直いってあまりいいとはいえませんでした。トイレとシャワーは一緒で、お湯はちゃんと出ましたがとても匂いが気になりました。くさかったです。ベッドはシーツやカバーは交換してくれませんでした。掃除の担当の係りの方によっては変えてくれる方もいたようですが、わたしのところは運が悪かったようです。ゴミブリは出まませんでし

たが、なんだか小さい虫が飛んでいて、それかシーツのダニだったのか夜中に刺されてかゆみで寝れなかった晩もありました。数日後には体が適応したのか何ともなくなりましたが、あとから思えば、青森から来た日本人学生は予防注射などをしてきたそうです。虫に刺されて、かゆみだけですんでよかったなと思いました。

あと、備えつけのものもTVがうつらなかつたり、湯沸しのポットがある部屋ない部屋あつたり、洗濯物を干すのにも空調の調子が悪かつたりと大変でした。

代金はいろいろもめたようですが、デポジットで100元払って、1400元の宿泊代でした。デポジットはちゃんと返ってきましたよ！



## ・学校の授業について

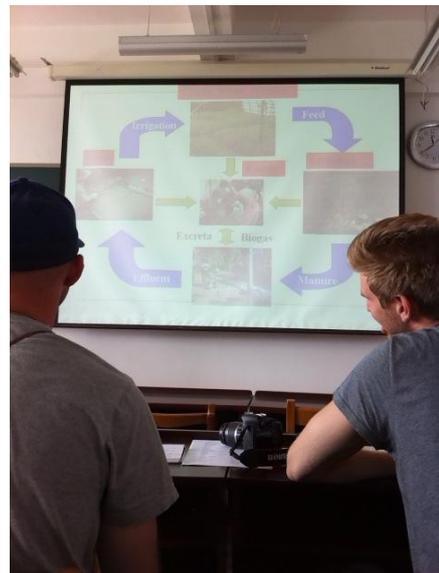
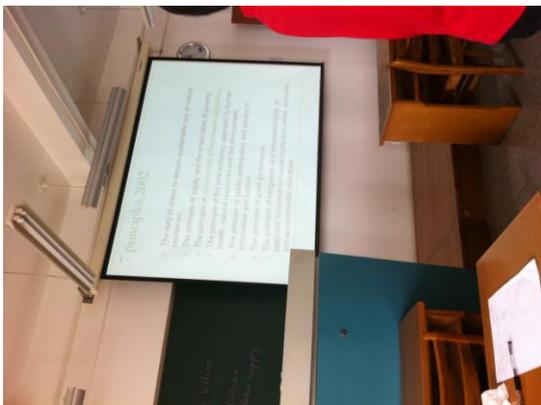
授業は平日に 3 コマで朝は 8 時に開始でした。時間割は配布されていましたが、今回は台風で授業が休校になったりしたため、変更もありました。基本的な中国語の授業と選択の環境クラスの授業、中国の文化を体験する授業が組まれていました。中国の文化体験の授業以外はすべて英語で行われました。基礎的な中国語の授業は教科書もありほかの外国人学生も中国語に関しては初心者だったので安心して受けることができました。ほとんどが発音の練習で、最後の授業ではテストもありました。先生方はなるべくやさしい英語を使ってくださるし、発表して積極的に参加すればポストカードを下さったり、楽しい授業でした。中国の文化体験の授業では、カンフー、習字、中国絵、切り絵などをしました。ここでは先生方は中国語で教えてくださることがほとんどだったので、中国人学生たちが英語や日本語に通訳をしてくれました。

一番大変だったのは環境クラスの授業でした。先生方のパワーポイントでのプレゼンで授業があり、すべて英語でした。それもやさしいものではなく専門的であったため、内容がほとんどわかりませんでした。環境クラスはスウェーデンの学生 4 人と福工大 2 人、中国の学生が 5 人くらいで過ごしましたが、中国人学生も自分の専門外だといって、難しいといっていました。教室で行う講義はスウェーデン学生と先生の高度な討論…といった感じでした。英語でのディスカッションの時間が与えられたり、英語が苦手な私にとってはとても難しい授業でした。授業をふまえたうえで自分の意見をのべる。という週末の課題も課されましたが中国人学生に図書館に連れて行ってもらったりしてなんとか…という感じでした。

また、環境クラスではバスに乗って、汚水処理施設にいたり、環境局にもいたりしました。







### ・外国人学生たちとの思い出

中国人学生は本当に全員が英語をしゃべることができて、そのうえに日本語までできる人がたくさんいました。日本語が上手な中国人学生は私たち日本人のチェーンズパートナーとして、全てをサポートしてくれました。日本人では今回のこのプログラムでは全部で6人！東北大学の男性1名、東大の学生1名、青森県のヒロサキ大から女性2名、福工大から2

名という感じでした。女の子同士というのもあり、青森の女の子 2 人と中国人学生たち、というたくさんの友達と毎日を過ごしていました。中国人学生の間では QQ というコミュニケーションツールがよく利用されており、青森の女学生は PC をつかって QQ で連絡をとって、集まる約束などしてくれていました。

DUT の学生は本当に親切で週末も放課後もとにかく誘って連れ出してくれました。海にいたり、火鍋を食べに行ったり、街に買い物に出かけたり、グラウンドでサッカーをしたり、全員でカラオケに行ったりもしました。バトミントン大会もトーナメント式で行い、たくさんの外国人留学生と試合をすることもできたしわたしは準優勝もできて夏のいい思い出となりました。













## ・まとめ、感想

今回のこの研修は私にとって初めての海外でした。パスポートやビザを取るところから、航空チケットを自分で予約することも自分でできる歳になったのだと、とても勉強になりました。中国はとても広くて、人であふれかえっていて、日本とはやっぱり違うなと感じました。DUT 学生はどんどん街に連れていってくれたので、中国が経済を発展させているというのも、日本よりも勢いがあるということも肌で感じることができました。一番思ったのは、やはり日本に比べて衛生面は良くないなということでした。今回は大連という中国の中でもきれいな都市だと聞いていましたが、街はどこでも生ごみのようなにおいはするし、点字ブロックはうめこまれてあとの泥やブロックはほったらかしだし、バスはドアが開いたまま運転したりするし！これが日本ではない、法律も何もかもが違う、外国なのだとい経験になりました。

学校生活で一番思ったのは「英語」の必要性です。DUT の学生は全員英語を普通に使っていました。私と同年代、もしくは後輩の年なのに、どんどん外国人留学生と交流をしていたし、すごいなと感じるのと一緒にもものすごく劣等感を感じました。青森から来た学生もそうでしたが、日本人の英語能力は低いなと感じてしまいました。中国人だけでなく、スウェーデンの学生もその他の外国人学生もみんな英語はふつうに使っていて、もっと英語を勉強してこの人たちとコミュニケーションを取りたいなというきっかけにはなりました。所々で言葉のハンデは感じて、生活もけして楽ではありませんでした。やっぱり最初のほうはストレスにもなったし、部屋で考え込んだりする時間もありました。でも、めげずに挨拶は元気よく！とか、笑顔は忘れずに！！とか自分なりに前向きに生活していくうちに「言葉の壁は越えられるんだ。」と思うようになれました。部屋を一人で使っているときなどは中国人学生たちがどんどん遊びにきてくれて、毎日とてもにぎやかでしたし、学生ならではの恋の話をしたり、DUT サマープログラムの T シャツに最後、記念にみんなにサインをもらったときも、誰よりも多くの学生にコメントをもらえたりと、言葉が違っても、国が違っても、何が違ってもこの夏を一緒に過ごした仲間の間には壁なんてないんだと思うことができました。

初めての海外ということもあり、戸惑うことも多かったですが、中国という国をもっと知りたくなったり、英語や中国語をもっと勉強したいと思えるようになった夏でした。実際、日本に帰ってからもアルバイト先に外国人のお客さんがきたときに、気兼ねなく話しかけることができるようになって、自分にも自信がついたかなと思います。これからもどんどん海外に行って自分の世界観を広げたいです。苦労も多かったですが、全部ひっくるめていい経験になりました。協力してくださった全ての方に感謝します。ありがとうございました。謝謝！！